

令和7年度

北日本医療福祉専門学校

介護福祉科シラバス

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|---|------|------|-----|-------------|-------|
| 人間の尊厳と自立 | 30時間 | 15コマ | 2単位 | 1学年 (通年) | 必修 |
| 【学修内容】 | | | | | |
| 介護場面における倫理を中心として展開し、最終的には尊厳の保持に必要な価値観を身につけることを目指す。利用者の尊厳を保持することや、介護場面の倫理を考えることで、利用者の生活歴や個性の尊重した支援の土台としていく。ひいては、生活の中での善悪判断や、モラルの獲得につながるようにする。 | | | | | |
| 【到達目標】 | | | | | |
| 1. 日本国憲法に規定されている基本的人権への理解を深める。 2. 人間の尊厳を介護実践場面から考えることができる。 3. 自立・自律の意味を、生活経験の中から捉えることができる。 4. 人間の主体的な生活について理解を深める。 5. 尊厳の捉え方の多様性を理解し、尊厳の保持する上で必要な倫理観を身に付けることができる。 | | | | | |
| 【授業の方法】 | | | | | |
| ・講義 | | | | | |
| 【成績評価の方法と基準】 | | | | | |
| ・試験90%及びレポート10%の評価とする。 | | | | | |
| 【授業時間外に必要な学修の具体的内容】 | | | | | |
| ・他教科の基本となる考え方、知識となりますので復習を欠かさず行いましょう。 | | | | | |
| 【使用教材・教具】 | | | | | |
| ・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座1 人間の理解 | | | | | |
| 【履修にあたっての留意点】 | | | | | |
| ・学修したことをもとに考察・レポートをかける力を養いましょう。 | | | | | |

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|---|------|------|-----|-------------|-------|
| 人間関係とコミュニケーション | 30時間 | 15コマ | 2単位 | 1学年 (後期) | 必修 |
| 【学修内容】 | | | | | |
| 領域「介護」のコミュニケーション技術の土台となる科目である。言葉づかい、姿勢、マナー等に焦点を充て、社会人としてのメール文章のやりとり方法や手紙の書き方など様々なコミュニケーションツールを用いて展開していく。 | | | | | |
| 【到達目標】 | | | | | |
| 1. 適切な言葉づかいを用いたコミュニケーションができる。 2. コミュニケーションを図るうえでのマナーを習得する。 3. 説明責任を果たす方法やその手続きについて理解する。 4. 言語に捉われない表現豊かなコミュニケーションを図ることができる。 5. チームにおけるコミュニケーションを理解する。 | | | | | |
| 【授業の方法】 | | | | | |
| ・講義 | | | | | |
| 【成績評価の方法と基準】 | | | | | |
| ・試験及びレポートを総合的に評価する。試験90%及びレポート10%の評価とする。 ・考査前の授業の際に、回答におけるポイントを説明するので、それをきちんと聞いて事前学習を行い考査に臨んでください。 | | | | | |
| 【授業時間外に必要な学修の具体的内容】 | | | | | |
| ・コミュニケーションは情報収集の大切なツールです。積極的に自己学習を進めてください。 | | | | | |
| 【使用教材・教具】 | | | | | |
| ・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講1 人間の理解 | | | | | |
| 【履修にあたっての留意点】 | | | | | |
| 介護福祉士の仕事は多くの職種とのつながりを学ぶことも大切です。この教科から、協働を考えられるように学びを深めましょう。 | | | | | |

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|----------------|------|------|-----|-------------|-------|
| 人間関係とコミュニケーション | 30時間 | 15コマ | 2単位 | 2学年 (通年) | 必修 |
| 【学修内容】 | | | | | |

| |
|---|
| <p>領域「介護」のコミュニケーション技術の土台となる科目である。 基礎的なコミュニケーション技術をもとに職種内・職種間のコミュニケーション技法を学ぶ。</p> |
| <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎的なコミュニケーション技法を用い活用できる。 2. 職種内、職種間のコミュニケーション技法を理解し活用できる。 3. 説明責任を果たす方法やその手続きについて理解する。 4. 言語に捉われない表現豊かなコミュニケーションを図ることができる。 5. チームにおけるコミュニケーションを理解する。 |
| <p>【授業の方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義 |
| <p>【成績評価の方法と基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験及びレポートを総合的に評価する。試験90%及びレポート10%の評価とする ・考査前の授業の際に、回答におけるポイントを説明するので、それをきちんと聞いて事前学習を行い考査に臨んでください。 |
| <p>【授業時間外に必要な学修の具体的内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションは情報収集の大切なツールです。積極的に自己学習を進めてください。 |
| <p>【使用教材・教具】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講1 人間の理解 |
| <p>【履修にあたっての留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士の仕事は多くの職種とのつながりを学ぶことも大切です。この教科から、協働を考えられるように学びを深めましょう。 |

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|---|------|------|-----|-------------|-------|
| 社会の理解Ⅰ | 30時間 | 15コマ | 2単位 | 1学年 (前期) | 必修 |
| <p>【学修内容】</p> <p>介護福祉士として必要な社会に関する諸制度を理解し、多様な利用者のニーズを把握する能力を養う。 介護福祉士として必要な障害者の支援を担う制度について最適なケアを提供できる能力を養う。 介護実践にかかわる諸制度に関する理解を中心に、専門性の高い介護福祉士の土台を構築する。</p> | | | | | |
| <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護と福祉制度の関連性を理解する。 2. 介護福祉士に求められる業務を理解する。 3. ライフステージに応じた社会福祉サービスを把握する。 4. 福祉制度の歴史的変遷を理解する。 5. 利用者に関わる権利擁護制度を理解する。 | | | | | |
| <p>【授業の方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義 | | | | | |
| <p>【成績評価の方法と基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験の成績70% 講義への参加態度、課題への取り組みの姿勢30%で評価する。 | | | | | |
| <p>【授業時間外に必要な学修の具体的内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習：第2回以降、講義の最後に示す該当箇所を読んでください（30分程度） ・復習：学んだその日のうちに、講義内容に目を通し、疑問点などは調べてみましょう（60分程度） | | | | | |
| <p>【使用教材・教具】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座2 社会の理解 | | | | | |
| <p>【履修にあたっての留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義中の私語や無許可で席を離れることは認めません。真摯に授業に取り組む姿勢で臨んでください。 ・講義の最後で示す、次回の講義内容に関連する箇所を読み、予習を進めていくことを心がけてください。 | | | | | |

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|--|------|------|-----|-------------|-------|
| 社会の理解Ⅱ | 30時間 | 15コマ | 2単位 | 2学年 (後期) | 必修 |
| <p>【学修内容】</p> <p>社会の理解Ⅰで学んだ事を土台として、福祉臨床に必要な制度の理解を目指す。介護保険の算定方法や障害者総合支援法の活用方法等、施設運営に必要な制度の理解に加え、利用者の権利を保障する成年後見制度や個人情報保護法など、福祉と関連のある法制度を理解し、福祉の現場で役立てていけるようにする。</p> | | | | | |
| <p>【到達目標】</p> | | | | | |

| |
|---|
| 1. 福祉六法の役割と意義を理解する。 2. 介護保険制度のシステムと活用方法を理解する。 3. 障害者総合支援法のシステムと活用方法を理解する。 4. 利用者のプライバシーを守る法制度について理解する。 5. 福祉サービスを必要とする者の権利を保障する制度を理解する。 |
| 【授業の方法】 ・ 講義 |
| 【成績評価の方法と基準】 ・ 試験の成績70% 講義への参加態度、課題への取り組みの姿勢30%で評価する。 |
| 【授業時間外に必要な学修の具体的内容】 予習：第2回以降、講義の最後に示す該当箇所を読んできてください（30分程度） 復習：学んだその日のうちに、講義内容に目を通し、疑問点などは調べてみましょう（60分程度） |
| 【使用教材・教具】 ・ 中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座2 社会の理解 |
| 【履修にあたっての留意点】 ・ 講義中の私語や無許可で席を離れることは認めません。真摯に授業に取り組む姿勢で臨んでください。 ・ 講義の最後で示す、次回の講義内容に関連する箇所を読み、予習を進めていくことを心がけてください。 |

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|--|------|------|-----|-------------|-------|
| 児童福祉論 | 30時間 | 15コマ | 2単位 | 2学年 (後期) | 必修 |
| 【学修内容】 介護実践において、肢体不自由児や重症心身障害児等、児童の専門的ケアのニーズが高まっていることを受け、具体的な関わり技法から法的理解・関係機関との連携を把握する。また、発達心理学の視点から児童の発達を捉え、各発達段階における課題の解決に向けてどのような方法が考えられるかを検討していく。 | | | | | |
| 【到達目標】 1. 児童福祉法の体系を理解できる 2. 障害者総合支援法に則ったサービスの流れを把握できる 3. 各障害児のニーズに応じた適切な支援方法を考えることができる。 4. 児童の権利について理解を深める | | | | | |
| 【授業の方法】 ・ 講義 | | | | | |
| 【成績評価の方法と基準】 ・ 試験の成績70% 講義への参加態度、課題への取り組みの姿勢30% | | | | | |
| 【授業時間外に必要な学修の具体的内容】 予習：第2回以降、講義の最後に示す教科書の該当箇所を読んできてください（60分程度） 復習：学んだその日のうちに、講義内容に目を通し、疑問点などは調べてみましょう（60分程度） | | | | | |
| 【使用教材・教具】 ・ 中央法規出版 新・社会福祉士養成講座3 児童・家庭福祉 | | | | | |
| 【履修にあたっての留意点】 ・ 講義中の私語や無許可で席を離れることは認めません。真摯に授業に取り組む姿勢で臨んでください。 ・ 講義の最後で示す、次回の講義内容を、読み、予習を進めていくことを心がけるようにしましょう。 | | | | | |

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|--|------|------|-----|-------------|-------|
| 地域福祉論 | 30時間 | 15コマ | 2単位 | 2学年 (後期) | 選択 |
| 【学修内容】 介護実践において、ノーマライゼーションの理念を土台とし、サービスを提供する際の社会資源との連携及びコミュニティ・ケアの重要性を認識する。自己像をサービス利用者に置き換え、地域の中で福祉サービスを利用しながらより良い生活をしていくための方法を考えていく。 | | | | | |
| 【到達目標】 1. 地域福祉の歴史と変遷を理解する。 2. ノーマライゼーションの理念を理解する。 3. コミュニティ・ワークの原理・原則を理解する。 4. 社会資源との連携方法を理解する。 | | | | | |
| 【授業の方法】 | | | | | |

| |
|--|
| ・講義 |
| 【成績評価の方法と基準】 |
| ・試験90%及びレポート10%とし評価する。 |
| 【授業時間外に必要な学修の具体的内容】 |
| ・自己学習も並行して進めましょう。 |
| 【使用教材・教具】 |
| ・中央法規出版 新・社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座6 地域福祉と包括支援体制 ・配布プリント |
| 【履修にあたっての留意点】 |
| ・復習をしましょう。 |

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|---------|------|------|-----|-------------|-------|
| 社会福祉経営論 | 30時間 | 15コマ | 2単位 | 2学年 (後期) | 選択 |

| |
|--|
| 【学修内容】 |
| 介護福祉士として、施設運営に関わる立場になったとき、実務レベルでその運営方法を理解できるようにする。勤務ローテーションの編成から、施設設立のシミュレーション等を展開し、専門性の高いアドミニストレーターを目指す。 |
| 【到達目標】 |
| 1. 福祉施設運営の原理・原則を把握する。 2. 福祉施設設置基準を踏まえた施設運営の方法を理解する。 3. 福祉専門職が働くうえで必要な法制度を理解する。 4. 福祉施設運営のシミュレーションを通し、地域に密着した施設運営の方法を理解する。 |
| 【授業の方法】 |
| ・講義 |
| 【成績評価の方法と基準】 |
| ・レポート10%及び試験90%とし評価する。 |
| 【授業時間外に必要な学修の具体的内容】 |
| ・復習をしっかりとしましょう。 |
| 【使用教材・教具】 |
| ・中央法規出版 新・社会福祉士養成講座1 福祉サービスの組織と経営 |
| 【履修にあたっての留意点】 |
| ・復習、調べ学習に取り組み、将来の介護施設について考えられる力を付けましょう。 |

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|--------|------|------|-----|-------------|-------|
| 介護の基本Ⅰ | 60時間 | 30コマ | 4単位 | 1学年 (前期) | 必修 |

| |
|--|
| 【学修内容】 |
| 介護の意義と役割及び専門性について介護の歴史や関連法規を通し、介護実践の基本的姿勢の知識を習得させ、一人ひとりの利用者の意向や生き方、生活習慣など、“その人らしさ（個別性を）”について理解させるとともに、尊厳を守る介護、自立に向けた介護について理解を深め、ケアマネジメントや職業倫理、リスクマネジメント、そして介護従事者の健康管理などを学ぶことにより、安全かつ安心できる介護や信頼のおける介護が実現できるような知識の習得を図る。 |
| 【到達目標】 |
| 1. 介護の歴史や介護問題の背景を理解し、介護福祉士を取り巻く社会状況を認識できる。 2. 介護の社会化の背景や、超高齢社会を担う専門職として介護福祉士に求められる社会的役割を理解する。 3. 社会福祉士及び介護福祉士法誕生の背景及び改正ポイントを理解し、介護福祉士の定義と義務を認識できる。 4. 介護を必要とする人及び家族の様々な生活上の課題を理解する。 5. 介護の対象者が、高齢者の偏らないよう、障害者に対する理解も同様に深めることが出来る。 6. QOLの意味を理解し、一人ひとりがその人らしい生活を継続するための支援の重要性を理解できる。 7. ノーマライゼーションの歴史的背景と理念について理解し、その理念に基づいた地域支援の課題について理解できる。 8. 自立に向けた介護の視点から、新しい障害観であるICF概念やその活用の基本姿勢について理解できる。また、介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、活用・発揮させること（エンパワメント）の意義について理解する。 9. リハビリテーションの概念である「全人的復権」について理解し、施設及び病院における生活機能の向 |

| |
|--|
| 上や介護予防の取り組みについて理解する。 |
| 【授業の方法】 |
| ・講義 |
| 【成績評価の方法と基準】 |
| ・筆記試験90%・レポート、課題の取組み10%とし評価する。 ・担当教員1：67%、担当教員2：33% |
| 【授業時間外に必要な学修の具体的内容】 |
| ・授業前には教科書を読み予習をしましょう。 ・介護福祉士の基礎となる教科書ですので、毎時間の復習も頑張りましょう。 |
| 【使用教材・教具】 |
| ・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座3・4 介護の基本Ⅰ・Ⅱ ・配布プリント |
| 【履修にあたっての留意点】 |
| ・介護の基本的な考え方を学びましょう。 |

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|--------|------|------|-----|-------------|-------|
| 介護の基本Ⅱ | 60時間 | 30コマ | 4単位 | 1学年 (前期) | 必修 |

| |
|---|
| 【学修内容】 |
| 介護の意義と役割及び専門性について介護の歴史や関連法規を通し、介護実践の基本的姿勢の知識を習得させ、一人ひとりの利用者の意向や生き方、生活習慣など、“その人らしさ（個別性を）”について理解させるとともに、尊厳を守る介護、自立に向けた介護について理解を深め、ケアマネジメントや職業倫理、リスクマネジメント、そして介護従事者の健康管理などを学ぶことにより、安全かつ安心できる介護や信頼のおける介護が実現できるような知識を習得する。 |
| 【到達目標】 |
| 1. 介護を必要とする人及び家族の様々な生活上の課題を理解する。 2. 生活上の課題の理解のために必要なサービスや、地域の中の社会資源を理解する。 3. 介護の対象者が、高齢者の偏らないよう、障害者に対する理解も同様に深めることが出来る。 |
| 【授業の方法】 |
| ・講義 |
| 【成績評価の方法と基準】 |
| ・筆記試験90%・レポート、課題の取組み10%とし評価する。 ・担当教員1：37%、担当教員2：33%、担当教員3：20%、担当教員4：10% |
| 【授業時間外に必要な学修の具体的内容】 |
| ・介護の個別性を考える時、色々な手法が考えられます。調べ学習をしてその手法を考えられる技術を身に付けましょう。 |
| 【使用教材・教具】 |
| ・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座4・6 介護の基本Ⅱ・生活支援技術Ⅰ ・適宜資料配布 |
| 【履修にあたっての留意点】 |
| ・予習・復習をしましょう。 |

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|--------|------|------|-----|-------------|-------|
| 介護の基本Ⅲ | 60時間 | 30コマ | 4単位 | 1学年 (通年) | 必修 |

| |
|---|
| 【学修内容】 |
| 介護の意義と役割及び専門性について介護の歴史や関連法規を通し、介護実践の基本的姿勢の知識を習得させ、一人ひとりの利用者の意向や生き方、生活習慣など、“その人らしさ（個別性を）”について理解させるとともに、尊厳を守る介護、自立に向けた介護について理解を深め、ケアマネジメントや職業倫理、リスクマネジメント、そして介護従事者の健康管理などを学ぶことにより、安全かつ安心できる介護や信頼のおける介護が実現できるような知識を習得する。 |
| 【到達目標】 |
| 1. 介護実践におけるチームとは何か、多職種の役割を学び、チームワークに参画する意義、連携方法を理解できる。 2. 多職種や地域との連携においても、一人の気づきから生まれることを理解できる。 3. 介護の対象者が、高齢者の偏らないよう、障害者に対する理解も同様に深めることが出来る。 |

| |
|--|
| 4. 安全の概念を予防・自立の点から考察し、セーフティマネジメントのあり方を理解できる。 |
| 5. 介護従事者の安全・健康管理を保障するための知識・技術を活用できるようになる。 |
| 【授業の方法】 |
| ・講義 |
| 【成績評価の方法と基準】 |
| ・前期筆記試験50%・後期筆記試験50%として評価する。 |
| 【授業時間外に必要な学修の具体的内容】 |
| ・教科書・配布資料をよく読み理解できるようにしましょう。 |
| 【使用教材・教具】 |
| ・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座3・4 介護の基本Ⅰ・Ⅱ |
| ・適宜資料配布 |
| 【履修にあたっての留意点】 |
| ・復習をして授業に望みましょう。 |

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|--|------|------|-----|-------------|-------|
| コミュニケーション技術Ⅰ | 30時間 | 15コマ | 1単位 | 1学年 (前期) | 必修 |
| 【学修内容】 | | | | | |
| コミュニケーションの基本を理解したうえで、具体的なコミュニケーション技法の習得を目指す。学習方法としては、ロールプレイで実際に体験し、グループディスカッションで、対人援助職としてのコミュニケーションのあり方について展開する。また、介護は対人援助に関する多職種との協働によって成り立つ。介護におけるチームのコミュニケーションの意義を理解し、チームの一員としてのコミュニケーションの方法について学習する。 | | | | | |
| 【到達目標】 | | | | | |
| 1. 介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割について理解できる。 2. 利用者・家族との関係づくりについて理解する。 3. さまざまなコミュニケーション技法について理解する。 4. 感覚機能、運動機能、認知・知覚機能が低下している利用者の状態について理解し、それに応じたコミュニケーション技法について学び、習得する。 | | | | | |
| 【授業の方法】 | | | | | |
| ・演習 | | | | | |
| 【成績評価の方法と基準】 | | | | | |
| ・筆記試験90%・レポート10%の評価 ・担当教員1：47%、担当教員2：20%、担当教員3：33% | | | | | |
| 【授業時間外に必要な学修の具体的内容】 | | | | | |
| ・グループディスカッションでは羞恥心をもたずに積極的に取り組みましょう。 | | | | | |
| 【使用教材・教具】 | | | | | |
| ・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術 ・新手話教室入門 ・本校作成手話テキスト | | | | | |
| 【履修にあたっての留意点】 | | | | | |
| 点字、手話の自己学習を勧めましょう。 | | | | | |

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|--|------|------|-----|-------------|-------|
| コミュニケーション技術Ⅱ | 30時間 | 15コマ | 1単位 | 1学年 (後期) | 必修 |
| 【学修内容】 | | | | | |
| コミュニケーションの基本を理解したうえで、具体的なコミュニケーション技法の習得を目指す。学習方法としては、ロールプレイで実際に体験し、グループディスカッションで、対人援助職としてのコミュニケーションのあり方について展開する。また、介護は対人援助に関する多職種との協働によって成り立つ。介護におけるチームのコミュニケーションの意義を理解し、チームの一員としてのコミュニケーションの方法について学習する。 | | | | | |
| 【到達目標】 | | | | | |
| 1. 介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割について理解し、自分の言葉で説明できる。 2. さまざまなコミュニケーション技法について理解し、実際に体験することでそれらを習得する。 3. 介護におけるチームのコミュニケーションに必要な記録や報告等について学び、その技術を習得する。 | | | | | |

| |
|---|
| 【授業の方法】 |
| ・演習 |
| 【成績評価の方法と基準】 |
| ・筆記試験・レポートの評価 ・担当教員1：33%、担当教員2：67% |
| 【授業時間外に必要な学修の具体的内容】 |
| ・介護福祉士の仕事は、コミュニケーションなくして成り立ちません。羞恥心をもたずに積極的に授業に参加しましょう。記録にはPC操作も必要な技術です。苦手な人は自己学習に努めましょう。 |
| 【使用教材・教具】 |
| ・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術 ・配布資料 |
| 【履修にあたっての留意点】 |
| ・連携する職種の専門性を理解しましょう。他職種とのコミュニケーション、介護チームとしてのコミュニケーションを考えながら学習しましょう。 |

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|---------|------|------|-----|-------------|-------|
| 生活支援技術Ⅰ | 60時間 | 30コマ | 2単位 | 1学年 (前期) | 必修 |

| |
|--|
| 【学修内容】 |
| 生活支援の基礎を理解させることにより、自立に向けた移動・身支度の介護を安全安楽で介護する技法と知識を習得し、身体・精神状態に応じた適切な介護及び自立支援を考慮した介護が提供できる能力を身につける。 |
| 【到達目標】 |
| 1. 生活支援の基本が理解できる。 2. 自立に向けた移動の介護について理解し、適切な介護技術を提供する知識と技術を身につける。 3. 自立に向けた身支度の介護について理解し、適切な介護技術を提供する知識と技術を身につける。 |
| 【授業の方法】 |
| ・演習 |
| 【成績評価の方法と基準】 |
| ・筆記試験・レポートの評価 実技試験の評価 ・担当教員1：50%、担当教員2：50% |
| 【授業時間外に必要な学修の具体的内容】 |
| ・こころとからだのしくみと関連付けて学習しましょう。 ・実技習得のために自己学習も進めましょう。 |
| 【使用教材・教具】 |
| ・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座6・7 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ ・配布プリント |
| 【履修にあたっての留意点】 |
| ・教室移動等の連絡があります。 |

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|---------|------|------|-----|-------------|-------|
| 生活支援技術Ⅱ | 60時間 | 30コマ | 2単位 | 1学年 (通年) | 必修 |

| |
|--|
| 【学修内容】 |
| 自立に向けた食事の介護及び入浴・清潔保持、排泄の援助を安全安楽で介護する技法と知識を習得し、身体・精神状態に応じた適切な介護及び自立支援を考慮した介護が提供できる能力を身につける。 |
| 【到達目標】 |
| 尊厳の保持の視点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について修得させる。 1. 自立に向けた食事の介護について理解し、適切な介護技術を提供する知識と技術を身につける。 2. 自立に向けた入浴・清潔保持の介護について理解し、適切な介護技術を提供する知識と技術を身につける。 3. 自立に向けた排泄の介護について理解し、適切な介護技術を提供する知識と技術を身につける。 4. ICFの視点に基づくアセスメントを理解し、展開することが出来る。 |
| 【授業の方法】 |
| ・演習 |
| 【成績評価の方法と基準】 |
| ・期末及び期中の筆記・実技試験により評価 |

| |
|--|
| ・担当教員1：94%、担当教員2：6% |
| 【授業時間外に必要な学修の具体的内容】 |
| ・復習：授業で習った実技の練習を各自行って下さい。 |
| 【使用教材・教具】 |
| ・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ ・適宜資料配布 |
| 【履修にあたっての留意点】 |
| ・介護実習へ行くためには実技試験の合格が必須です。繰り返し練習をしましょう。 |

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|---------|------|------|-----|-------------|-------|
| 生活支援技術Ⅲ | 60時間 | 30コマ | 2単位 | 1学年 (前期) | 必修 |

| |
|--|
| 【学修内容】 |
| 1. 介護上の様々な視点からICFの展開方法を身につける。 2. 自立に向けた家事援助の方法と知識を習得し、適切なサービスが提供できる能力を身につける。 3. 利用者の居住環境整備の意義と目的を理解させ、適切な援助が提供できる能力を身につける。 |
| 【到達目標】 |
| 1. 自立に向けた家事援助の方法と知識を理解し、適切なサービスが提供できる。 2. 利用者の居住環境整備の意義と目的を理解し、適切な援助が提供できる。 3. 家庭生活にかかわる考え方や営みを理解し、適切なサービスを提供できる。 |
| 【授業の方法】 |
| ・演習 |
| 【成績評価の方法と基準】 |
| ・筆記試験・レポートの評価 ・担当教員1：27%、担当教員2：23%、担当教員3：27%、担当教員4：23% |
| 【授業時間外に必要な学修の具体的内容】 |
| ・学習内容が多岐にわたります。生活分野のそれぞれの技法を学びましょう。 |
| 【使用教材・教具】 |
| ・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ ・適宜資料配布 |
| 【履修にあたっての留意点】 |
| ・自分の生活を振り返りながら学習してみよう。 |

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|---------|------|------|-----|-------------|-------|
| 生活支援技術Ⅳ | 60時間 | 30コマ | 2単位 | 2学年 (後期) | 必修 |

| |
|---|
| 【学修内容】 |
| 1. 介護福祉士が展開するレクリエーション方法について学ぶ。 2. 自立に向けた睡眠の援助方法と知識を習得し、適切なサービスが提供できる能力を身につける。 3. 終末期における介護についての知識を習得し、本人・家族への支援方法について考える。 |
| 【到達目標】 |
| 1. 対象者の状況に合わせたレクリエーション計画の立案、発表ができる。 2. 自立に向けた睡眠の介護方法と知識を理解し、適切なサービスが提供できる。 3. 終末期における介護の意義、目的を理解し、終末期のケアを提供する能力を修得する。 |
| 【授業の方法】 |
| ・演習 |
| 【成績評価の方法と基準】 |
| ・筆記試験・レポートの評価、 ・担当教員1：50%、担当教員2：50% |
| 【授業時間外に必要な学修の具体的内容】 |
| ・予習・復習をして授業に望みましょう。 |
| 【使用教材・教具】 |
| ・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ 適宜資料配布 |
| 【履修にあたっての留意点】 |
| ・他教科とも関連付けて学習を勧めましょう。 |

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|---|------|------|-----|-------------|-------|
| 生活支援技術 V | 60時間 | 30コマ | 2単位 | 2学年 (後期) | 必修 |
| 【学修内容】 | | | | | |
| 利用者の状態・状況に応じた援助の方法と知識を習得し、適切なサービスが提供できる能力を身につける。 | | | | | |
| 【到達目標】 | | | | | |
| 利用者の状態・状況に応じた援助の方法と知識を習得し、生活の維持・拡大ができるような知識や技術を修得する。 | | | | | |
| 【授業の方法】 | | | | | |
| ・演習 | | | | | |
| 【成績評価の方法と基準】 | | | | | |
| 期末及び期中の筆記・実技試験により評価します。 | | | | | |
| ・担当教員1：90%、担当教員2：10% | | | | | |
| 【授業時間外に必要な学修の具体的内容】 | | | | | |
| ・予習、課題 | | | | | |
| 【使用教材・教具】 | | | | | |
| ・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座8 生活支援技術 III | | | | | |
| ・適宜資料配布 | | | | | |
| 【履修にあたっての留意点】 | | | | | |
| ・関連する『障害の理解』『こころとからだのしくみ』のテキストも併用し、復習や調べ学習をし、障害についての理解を深めてください。 | | | | | |

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|---|------|------|-----|-------------|-------|
| 介護過程 I | 30時間 | 15コマ | 1単位 | 1学年 (前期) | 必修 |
| 【学修内容】 | | | | | |
| 介護過程を個々の介護ニーズを的確に把握し、計画的に介護を実践・評価していく科学的な問題解決法であることを理解する。利用者の生活の質の向上に向けて、生活上の課題を把握し、それを解決していくために必要な介護のあり方を個別的に考察し計画を立て、実施・評価していく一連の流れを演習を通して理解する。 | | | | | |
| 介護過程を展開するにあたって、情報の収集やアセスメントの内容によって異なる介護計画が導かれてしまうこと、そのための的確な情報収集やアセスメントの必要性を理解しスキルを高める。 | | | | | |
| 【到達目標】 | | | | | |
| 1. 介護過程の意義、目的・目標から、専門職の課題を把握することができる。 | | | | | |
| 2. 介護過程における「問題」および「ニーズ」という用語について理解し、とらえ方や解決過程を把握することができる。 | | | | | |
| 3. ICFの基本を理解し、介護過程との関係が把握できる。 | | | | | |
| 【授業の方法】 | | | | | |
| ・演習 | | | | | |
| 【成績評価の方法と基準】 | | | | | |
| ・筆記試験90%・レポート10%の評価とする。 | | | | | |
| 【授業時間外に必要な学修の具体的内容】 | | | | | |
| ・介護福祉士の基本となる科目であり、介護実習でも学習していく科目です。他教科と関連付けながら学習を勧めましょう。 | | | | | |
| 【使用教材・教具】 | | | | | |
| ・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座9 介護過程 | | | | | |
| ・配布プリント | | | | | |
| 【履修にあたっての留意点】 | | | | | |
| ・介護福祉士の基礎となる教科です。予習復習をして授業に望みましょう。 | | | | | |

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|---|------|------|-----|-------------|-------|
| 介護過程 II | 30時間 | 15コマ | 1単位 | 1学年 (前期) | 必修 |
| 【学修内容】 | | | | | |
| 介護過程を個々の介護ニーズを的確に把握し、計画的に介護を実践・評価していく科学的な問題解決法であることを理解する。利用者の生活の質の向上に向けて、生活上の課題を把握し、それを解決していくため | | | | | |

| |
|--|
| <p>に必要な介護のあり方を個別的に考察し計画を立て、実施・評価していく一連の流れを演習を通して理解する。</p> <p>介護過程を展開するにあたって、情報の収集やアセスメントの内容によって異なる介護計画が導かれてしまうこと、そのための的確な情報収集やアセスメントの必要性を理解しスキルを高める。</p> |
| 【到達目標】 |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 把握すべき事実の内容を理解し、課題の抽出ができるようになる。 2. アセスメントの意義を理解し、なぜその項目が必要なのか説明することが出来る。 3. アセスメントツールがどのような思考の元に作られてきたのかを理解することができる。 |
| 【授業の方法】 |
| ・演習 |
| 【成績評価の方法と基準】 |
| ・筆記試験90%・レポート10%の評価とする。 |
| 【授業時間外に必要な学修の具体的内容】 |
| ・この分野は、利用者を理解し介護過程を展開していくうえで大切な分野です。演習でも展開できるように学習を進めましょう。 |
| 【使用教材・教具】 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座9 介護過程 ・配布プリント |
| 【履修にあたっての留意点】 |
| ・講義前の予習・復習をしましょう。 |

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|-------|------|------|-----|-------------|-------|
| 介護過程Ⅲ | 30時間 | 15コマ | 1単位 | 1学年 (後期) | 必修 |

| |
|--|
| 【学修内容】 |
| <p>介護過程を個々の介護ニーズを的確に把握し、計画的に介護を実践・評価していく科学的な問題解決法であることを理解する。利用者の生活の質の向上に向けて、生活上の課題を把握し、それを解決していくために必要な介護のあり方を個別的に考察し計画を立て、実施・評価していく一連の流れを、演習を通して理解する。</p> <p>介護過程を展開するにあたって、情報の収集やアセスメントの内容によって、異なる介護計画が導かれてしまうこと、そのための的確な情報収集やアセスメントの必要性を理解しスキルを高める。</p> |
| 【到達目標】 |
| <p>他の科目で学習した知識や技術を統合し、介護計画の立案、介護過程の展開をとおり、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護過程とは個々のニーズを的確に把握し、計画的に介護を実践・評価することの連続であると理解する。 2. 把握すべき事実の内容を理解し、達成すべき課題の抽出及び優先順位を検討することができる。 3. 介護過程の展開における評価の重要性を理解し、その評価が適正なものであるかどうかの判断、また他者の計画への正当な評価が出来るようになる。 |
| 【授業の方法】 |
| ・演習 |
| 【成績評価の方法と基準】 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・期末の筆記試験及び演習により評価します。 ・期末試験の成績80%、演習20% |
| 【授業時間外に必要な学修の具体的内容】 |
| ・予習：次回に行われる授業の範囲の教科書を読んできて下さい。 |
| 【使用教材・教具】 |
| ・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座9 介護過程 |
| 【履修にあたっての留意点】 |
| ・学修したことを元に介護計画を立案する力を養いましょう。 |

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|-------|------|------|-----|-------------|-------|
| 介護過程Ⅳ | 30時間 | 15コマ | 1単位 | 2学年 (前期) | 必修 |

| |
|---|
| 【学修内容】 |
| <p>介護過程を個々の介護ニーズを的確に把握し、計画的に介護を実践・評価していく科学的な問題解決法であることを理解する。利用者の生活の質の向上に向けて生活上の課題を把握し、それを解決していくために必要な介護のあり方を個別的に考察し計画を立て、実施・評価していく一連の流れを演習を通して理解する。</p> |

| |
|---|
| 介護過程を展開するにあたって、情報の収集やアセスメントの内容によって異なる介護計画が導かれてしまうこと、そのための的確な情報収集やアセスメントの必要性を理解しスキルを高める。 |
| 【到達目標】 |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 今までに学習した知識・技術は、介護過程の中で利用者の能力に合わせて応用・発展・活用するものであると理解する。 2. 把握すべき事実の内容を理解し、達成すべき課題に向けて必要な介護実践の内容を計画できるようになる。 3. 介護サービス利用者が生活する環境を考慮し、そのときその場で最善の支援が出来るよう、既存のサービス、社会資源を活用した介護過程を展開できるようになる。 4. 介護過程の展開における評価の重要性を理解し、その評価が適正なものであるかどうかの判断、また他者の計画への正当な評価が出来るようになる。 |
| 【授業の方法】 |
| ・演習 |
| 【成績評価の方法と基準】 |
| ・期末試験の成績80%、演習20% |
| 【授業時間外に必要な学修の具体的内容】 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・介護過程の展開をする時には他教科で学ぶ知識も必要となります。 ・調べ学習、自己学習を進めるようにしましょう。 |
| 【使用教材・教具】 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座9 介護過程 ・適宜配布物使用 |
| 【履修にあたっての留意点】 |
| ・介護過程の教材以外の教材が参考資料となります。適宜、必要なものを持参すると良いでしょう。 |

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|-------|------|------|-----|-------------|-------|
| 介護過程Ⅴ | 30時間 | 15コマ | 1単位 | 2学年 (後期) | 必修 |

| |
|---|
| 【学修内容】 |
| <p>介護過程を個々の介護ニーズを的確に把握し、計画的に介護を実践・評価していく科学的な問題解決法であることを理解する。利用者の生活の質の向上に向けて、生活上の課題を把握し、それを解決していくために必要な介護のあり方を、個別的に考察し計画を立て、実施・評価していく一連の流れを、演習を通して理解する。</p> <p>介護過程を展開するにあたって、情報の収集やアセスメントの内容によって、異なる介護計画が導かれてしまうこと、そのための的確な情報収集やアセスメントの必要性を理解し、スキルを高める。</p> |
| 【到達目標】 |
| <p>他の科目で学習した知識や技術を統合し、介護計画の立案、介護過程の展開をとおり、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 今までに学習した知識・技術は、介護過程の中で利用者の能力に合わせて応用・発展・活用するものであると理解する。 2. すべてのケアの方法や手順には意味と理由があり、それを説明できなければいけないことを理解する。 3. 介護サービス利用者が生活する環境を考慮し、そのときその場で最善の支援が出来るよう、既存のサービス、社会資源を活用した介護過程を展開できるようになる。 4. 必要な知識と技術を身につけ、専門職の一員として他職種との連携を行うことができるようになる。 5. 利用者と家族への説明と同意が、職業倫理に基づいた重要事項であると理解し、実行できる。 6. 感情的ではなく科学的な理解を元に、死を目前にした人へのケアについて考え、そのかわりの中で、専門職として仕事をする自分の感情を整理することの必要性を理解できる。 |
| 【授業の方法】 |
| ・演習 |
| 【成績評価の方法と基準】 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・事例研究発表会までの取り組み・提出物及び事例研究発表会の発表により評価します。 ・事例研究発表会までの取り組み・提出物50%、事例研究発表会の発表50%で評価します。 |
| 【授業時間外に必要な学修の具体的内容】 |
| ・事例研究の担当教員の指導の元、研究論文の打ち込み修正を行って下さい。 |
| 【使用教材・教具】 |
| ・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座9 介護過程 |
| 【履修にあたっての留意点】 |
| ・時間に余裕をもって研究を進めましょう。 |

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|---|------|------|-----|-------------|-------|
| 介護総合演習Ⅰ | 30時間 | 15コマ | 1単位 | 1学年 (前期) | 必修 |
| 【学修内容】 介護実習に向けての心構え、予備知識、動機付けを教授することにより、介護福祉士として介護実習中の実践力を身につけることができる能力を養う。 実習後は十分な振り返る能力を養う。 | | | | | |
| 【到達目標】 1. 介護施設の概要と利用者の生活像を整理・理解でき、介護福祉士としての役割が明確化できる。 2. 他者理解に必要な基本的な方法やマナーを習得する。 3. 実習のイメージを膨らませ、自身の目標や学習課題を言語化・明確化できる。 | | | | | |
| 【授業の方法】 ・演習 | | | | | |
| 【成績評価の方法と基準】 ・筆記試験90%・レポート10%の評価とする。 | | | | | |
| 【授業時間外に必要な学修の具体的内容】 ・介護実習前の大切な科目です。実習生としての学びを深めるために、記録等不安なく実習に望めるよう学習を進めましょう。 | | | | | |
| 【使用教材・教具】 ・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 ・介護実習要綱 | | | | | |
| 【履修にあたっての留意点】 ・予習・復習をして授業に望みましょう。 | | | | | |

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|--|------|------|-----|-------------|-------|
| 介護総合演習Ⅱ | 30時間 | 15コマ | 1単位 | 1学年 (前期) | 必修 |
| 【学修内容】 介護実習に向けての心構え、予備知識、動機付けを教授することにより、介護福祉士として介護実習中の実践力を身につけることができる能力を養う。 実習後は十分な振り返る能力を養う。 | | | | | |
| 【到達目標】 1. 実習のイメージを膨らませ、自身の目標や学習課題を言語化・明確化できる。 2. 介護実習を経験し、実習施設の概要と利用者の生活ニーズを整理・理解でき、介護福祉士に求められる倫理性と専門性を明確化できる。 3. 介護実習を経験し、自己を客観的に振り返り、次の介護実習に向けた課題を明確化できる。 | | | | | |
| 【授業の方法】 ・演習 | | | | | |
| 【成績評価の方法と基準】 ・期末、期中の筆記試験、レポートで評価し単位を認定する。 ・筆記試験80%、レポート20% | | | | | |
| 【授業時間外に必要な学修の具体的内容】 ・予習、レポート作成 | | | | | |
| 【使用教材・教具】 ・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 ・介護実習要綱 | | | | | |
| 【履修にあたっての留意点】 ・『介護過程』のテキストを併用し、アセスメントの基本をしっかりと定着させてから演習に望みましょう。 | | | | | |

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|---|------|------|-----|-------------|-------|
| 介護総合演習Ⅲ | 30時間 | 15コマ | 1単位 | 1学年 (後期) | 必修 |
| 【学修内容】 介護実習に向けての心構え、予備知識、動機付けを教授することにより、介護福祉士として介護実習中の実践力を身につけることができる能力を養う。実習後は十分な振り返る能力を養う。 | | | | | |

| |
|--|
| 【到達目標】 |
| 1. 実習のイメージを膨らませ、自身の目標や学習課題を言語化・明確化できる。 2. 介護実習を経験し、実習施設の概要と利用者の生活ニーズを整理・理解でき、介護福祉士に求められる倫理性と専門性を明確化できる。 3. 介護実習を経験し、自己を客観的に振り返り、次の介護実習に向けた課題を明確化できる。 4. 個別ケアや多様なサービス形態のあり方を理解できる。 |
| 【授業の方法】 |
| ・演習 |
| 【成績評価の方法と基準】 |
| ・筆記試験90%・レポート10%の評価とする。 |
| 【授業時間外に必要な学修の具体的内容】 |
| ・実習に向けての授業です。不安なく実習に向えるよう学習を進めましょう。 |
| 【使用教材・教具】 |
| ・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 ・介護実習要綱 |
| 【履修にあたっての留意点】 |
| ・予習・復習をしましょう。 |

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|--|------|------|-----|-------------|-------|
| 介護総合演習Ⅳ | 30時間 | 15コマ | 1単位 | 2学年 (前期) | 必修 |
| 【学修内容】 | | | | | |
| 介護実習に向けての心構え、予備知識、動機付けを教授することにより、介護福祉士として介護実習中の実践力を身につけることができる能力を養う。 実習後は十分な振り返る能力を養う。 | | | | | |
| 【到達目標】 | | | | | |
| 1. 実習のイメージを膨らませ、自身の目標や学習課題を言語化・明確化できる。 2. 介護実習を経験し、実習施設の概要と利用者の生活ニーズを整理・理解でき、介護福祉士に求められる倫理性と専門性を明確化できる。 3. 個別ケアや多様なサービス形態のあり方を理解できる。 | | | | | |
| 【授業の方法】 | | | | | |
| ・演習 | | | | | |
| 【成績評価の方法と基準】 | | | | | |
| ・期末試験の成績80%、演習20% | | | | | |
| 【授業時間外に必要な学修の具体的内容】 | | | | | |
| ・予習：次回に行われる授業の範囲の教科書を読んできて下さい。 | | | | | |
| 【使用教材・教具】 | | | | | |
| ・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 ・介護実習要綱 | | | | | |
| 【履修にあたっての留意点】 | | | | | |
| ・介護過程、記録に対する理解が不十分のまま実習へ行くことのないようにして下さい。 | | | | | |

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|--|-----------|------|------|-------------|-------|
| 介護実習Ⅰ-1 | 100/135時間 | 15日間 | 計3単位 | 1学年 (後期) | 必修 |
| 【学修内容】 | | | | | |
| 1. 介護福祉士として知識、技術、態度を身に付け、介護現場で実践できる能力を形成する。 2. 実習を通し総合的な福祉サービスへの理解を深め、福祉専門職として介護福祉士の役割を認識し、その役割を果たす能力を養う。 | | | | | |
| 【実習到達目標】 | | | | | |
| 1. 学んだ知識を活用し、利用者との人間的なふれあいを深める。 2. 利用者が必要とする介護サービスを提供する際に必要な理解力、判断力を養う。 3. 障害および状況に応じた介護技術が提供できる。 4. 介護計画の立案、記録について学び、チームの一員として介護サービスが提供できる。 5. 利用者へ提供する介護サービス全般について職務内容の理解を深める。 6. 実習を通して自己の介護観を形成できる。 | | | | | |

| |
|---|
| 【授業の方法】 |
| ・実習 |
| 【成績評価の方法と基準】 |
| ・施設評価及び教員評価をもとに評価する。 |
| 【授業時間外に必要な学修の具体的内容】 |
| ・教員の巡回を利用し、実習でのつまづきを解消して行きましょう。 |
| 【使用教材・教具】 |
| ・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 ・本校介護実習要綱 |
| 【履修にあたっての留意点】 |
| ・提出物は遅れないように提出すること。 |

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|---------|-----------|-----|------|-------------|-------|
| 介護実習Ⅰ-2 | 35/135 時間 | 5日間 | 計3単位 | 1学年 (後期) | 必修 |

| |
|--|
| 【学修内容】 |
| 1. 介護福祉士として知識、技術、態度を身に付け、介護現場で実践できる能力を形成する。 2. 実習を通し総合的な福祉サービスへの理解を深め、福祉専門職として介護福祉士の役割を認識し、その役割を果たす能力を養う。 |
| 【実習到達目標】 |
| 1. 学んだ知識を活用し、利用者との人間的なふれあいを深める。 2. 利用者が必要とする介護サービスを提供する際に必要な理解力、判断力を養う。 3. 障害および状況に応じた介護技術が提供できる。 4. 介護計画の立案、記録について学び、チームの一員として介護サービスが提供できる。 5. 利用者に提供する介護サービス全般について職務内容の理解を深める。 6. 実習を通して自己の介護観を形成できる。 |
| 【授業の方法】 |
| ・実習 |
| 【成績評価の方法と基準】 |
| ・施設評価及び教員評価をもとに評価する。 |
| 【授業時間外に必要な学修の具体的内容】 |
| ・教員の巡回を利用し、実習でのつまづきを解消して行きましょう。 |
| 【使用教材・教具】 |
| ・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 ・本校介護実習要綱 |
| 【履修にあたっての留意点】 |

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|---------|------------|------|------|-------------|-------|
| 介護実習Ⅱ-1 | 154/315 時間 | 22日間 | 計7単位 | 2学年 (前期) | 必修 |

| |
|--|
| 【学修内容】 |
| 1. 介護福祉士として知識、技術、態度を身に付け、介護現場で実践できる能力を形成する。 2. 実習を通し総合的な福祉サービスへの理解を深め、福祉専門職として介護福祉士の役割を認識し、その役割を果たす能力を養う。 |
| 【実習到達目標】 |
| 1. 学んだ知識を活用し、利用者との人間的なふれあいを深める。 2. 利用者が必要とする介護サービスを提供する際に必要な理解力、判断力を養う。 3. 障害および状況に応じた介護技術が提供できる。 4. 介護計画の立案、記録について学び、チームの一員として介護サービスが提供できる。 5. 利用者に提供する介護サービス全般について職務内容の理解を深める。 6. 実習を通して自己の介護観を形成できる。 |
| 【授業の方法】 |
| ・実習 |
| 【成績評価の方法と基準】 |
| ・施設評価及び教員評価をもとに評価する。 |

| |
|---|
| 【授業時間外に必要な学修の具体的内容】 |
| ・教員の巡回を利用し、実習での妻付きを解消していきましょう。 |
| 【使用教材・教具】 |
| ・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 ・本校介護実習要綱 |
| 【履修にあたっての留意点】 |
| |

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|--|-----------|------|------|-------------|-------|
| 介護実習Ⅱ-2 | 161/315時間 | 23日間 | 計7単位 | 2学年 (前期) | 必修 |
| 【学修内容】 | | | | | |
| 1. 介護福祉士として知識、技術、態度を身に付け、介護現場で実践できる能力を形成する。 2. 実習を通し総合的な福祉サービスへの理解を深め、福祉専門職として介護福祉士の役割を認識し、その役割を果たす能力を養う。 | | | | | |
| 【実習到達目標】 | | | | | |
| 1. 学んだ知識を活用し、利用者との人間的なふれあいを深める。 2. 利用者が必要とする介護サービスを提供する際に必要な理解力、判断力を養う。 3. 障害および状況に応じた介護技術が提供できる。 4. 介護計画の立案、記録について学び、チームの一員として介護サービスが提供できる。 5. 利用者に提供する介護サービス全般について職務内容の理解を深める。 6. 実習を通して自己の介護観を形成できる。 | | | | | |
| 【授業の方法】 | | | | | |
| ・実習 | | | | | |
| 【成績評価の方法と基準】 | | | | | |
| ・施設評価及び教員評価をもとに評価する。 | | | | | |
| 【授業時間外に必要な学修の具体的内容】 | | | | | |
| ・教員の巡回を利用し、実習での躓きを解消して行きましょう。 | | | | | |
| 【使用教材・教具】 | | | | | |
| ・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 ・本校介護実習要綱 | | | | | |
| 【履修にあたっての留意点】 | | | | | |
| ・提出物は遅れの内容に提出すること。 | | | | | |

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|---|------|------|-----|-------------|-------|
| 発達と老化の理解 | 60時間 | 30コマ | 4単位 | 1学年 (通年) | 必修 |
| 【学修内容】 | | | | | |
| 人間の成長と発達、老化に伴う心身の変化や日常生活に及ぼす影響、高齢者に多い疾病などについて教授し生活支援技術の根拠となる知識の習得を図る。 | | | | | |
| 【到達目標】 | | | | | |
| 1. 人間の成長と発達の基礎的理解、健康な子供の成長・発達及び老年期の発達と成熟について理解する。 2. 高齢者の病気の特徴及び老化に伴うこころとからだの変化と日常生活の留意点について習得できる。 | | | | | |
| 【授業の方法】 | | | | | |
| ・講義 | | | | | |
| 【成績評価の方法と基準】 | | | | | |
| ・試験90%・レポート10%の評価 ・担当教員1：33%、担当教員2：67% | | | | | |
| 【授業時間外に必要な学修の具体的内容】 | | | | | |
| ・家庭学習を進め積極的に知識の習得に努めましょう。 | | | | | |
| 【使用教材・教具】 | | | | | |
| ・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解 ・配布プリント | | | | | |
| 【履修にあたっての留意点】 | | | | | |
| ・予習復習をしましょう。 | | | | | |

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|--|------|------|-----|-------------|-------|
| 認知症の理解 | 60時間 | 30コマ | 4単位 | 1学年 (後期) | 必修 |
| 【学修内容】 | | | | | |
| 認知症を取り巻く状況、医学的側面からみた認知症の基礎的理解、さらに日常生活の場の特性を踏まえて連携と協働による支援、家族への支援等教授し、認知症の人への生活支援の根拠となる知識を習得する。 | | | | | |
| 【到達目標】 | | | | | |
| 認知症に関する基礎的知識を習得するとともに認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を養う。 | | | | | |
| 1. 認知症を取り巻く状況及び医学的側面からみた認知症の基礎を習得できる。 2. 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活の留意点を習得できる。 | | | | | |
| 【授業の方法】 | | | | | |
| ・講義 | | | | | |
| 【成績評価の方法と基準】 | | | | | |
| ・期末及び期中の筆記試験により評価します。 ・担当教員：67%、担当教員2：33% | | | | | |
| 【授業時間外に必要な学修の具体的内容】 | | | | | |
| ・家庭学習を進め積極的に知識の習得に努めましょう。 | | | | | |
| 【使用教材・教具】 | | | | | |
| ・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解 | | | | | |
| 【履修にあたっての留意点】 | | | | | |
| ・予習復習をしましょう。 | | | | | |

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|---|------|------|-----|-------------|-------|
| 障害の理解 | 60時間 | 30コマ | 4単位 | 2学年 (後期) | 必修 |
| 【学修内容】 | | | | | |
| 障害について、運動機能障害、内部障害、視覚障害、聴覚障害、言葉の障害、発達障害、知的障害、精神障害、高次脳機能障害、難病及び全介助を要する状態をとりあげ、障害をもつ生活支援の根拠となる知識の習得を図る。 | | | | | |
| 【到達目標】 | | | | | |
| 1. 障害の基礎的理解、障害の医学的側面の基礎的知識を習得できる。 2. 障害を持つ人への連携と共同による支援及び家族への支援等介護の視点を習得できる。 | | | | | |
| 【授業の方法】 | | | | | |
| ・講義 | | | | | |
| 【成績評価の方法と基準】 | | | | | |
| ・期末、期中の試験・レポートの評価基準などで判定します。 ・担当教員1：90%、担当教員2：10% | | | | | |
| 【授業時間外に必要な学修の具体的内容】 | | | | | |
| ・予習、復習、レポート作成の課題取り組み、他教科の認知症の理解、こころとからだのしくみと併修すると理解が進みます | | | | | |
| 【使用教材・教具】 | | | | | |
| ・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座14 障害の理解 | | | | | |
| 【履修にあたっての留意点】 | | | | | |
| ・関連する『生活支援技術Ⅲ』『こころとからだのしくみ』のテキスト併用し、解剖学的基礎知識を定着させることで、障害についての理解が深まります。 | | | | | |

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|---|------|------|-----|-------------|-------|
| こころとからだのしくみⅠ | 60時間 | 30コマ | 4単位 | 1学年 (前期) | 必修 |
| 【学修内容】 | | | | | |
| 人間の欲求の基本的理解やこころの仕組みの基礎、からだのしくみの基礎について教授しこころとからだは相互に影響し合うことを理解し、生活支援技術の根拠となる知識を習得する。 | | | | | |
| 【到達目標】 | | | | | |
| 1. こころのしくみが理解できる。 2. からだのしくみが理解できる。 | | | | | |

| |
|--|
| 【授業の方法】 |
| ・講義 |
| 【成績評価の方法と基準】 |
| ・試験90%・レポート10%で評価する。 ・こころのしくみ50%、からだのしくみ50% |
| 【授業時間外に必要な学修の具体的内容】 |
| ・介護は人間を知ることが必要です。介護をするうえで基本となる教科ですので予習復習をして授業に望みましょう。 |
| 【使用教材・教具】 |
| ・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ ・中央法規出版 イラストでわかる高齢者のからだと病気 |
| 【履修にあたっての留意点】 |
| ・分からないところは、調べ学習等で自己学習もしましょう。 |

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|--------------|------|------|-----|-------------|-------|
| こころとからだのしくみⅡ | 60時間 | 30コマ | 4単位 | 1学年 (後期) | 必修 |

| |
|---|
| 【学修内容】 |
| 移動、入浴、食事、排泄等日常生活の活動とこころとからだのしくみ及び死にゆく人のこころとからだのしくみについて教授し生活支援の根拠となる基礎的な知識の習得を図る。 |
| 【到達目標】 |
| 1 移動、身じたく、入浴、清潔保持、食事、排泄、睡眠に関連したこころとからだのしくみ及び死にゆく人のこころとからだのしくみが理解できる。 2 生活支援行為の妥当性が判断できる。 |
| 【授業の方法】 |
| ・講義 |
| 【成績評価の方法と基準】 |
| ・期末・期中の試験、により評価（担当教員1：90%、担当教員2：10%） |
| 【授業時間外に必要な学修の具体的内容】 |
| ・予習、復習、レポート作成、他教科の生活支援技術の併修をしましょう。 |
| 【使用教材・教具】 |
| ・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ ・中央法規出版 イラストでわかる高齢者のからだと病気 |
| 【履修にあたっての留意点】 |
| ・関連する『障害の理解』『生活支援技術Ⅲ』のテキスト併用し、復習、調べ学習をし、基礎知識を高めると解剖学的にも理解が深まるでしょう。 |

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|--------|------|------|-----|-------------|-------|
| 医療的ケアⅠ | 60時間 | 30コマ | 4単位 | 2学年 (通年) | 必修 |

| |
|---|
| 【学修内容】 |
| 1. 医療的ケアの必要な利用者のこころとからだのしくみを理解し個人の尊厳を守り、自立した生活の援助の展開ができる。 2. 呼吸器系のしくみを理解し喀痰吸引時の操作・感染等のリスクの少ない援助を考えることができる。 3. 消化器系のしくみを理解し経管栄養時の操作・感染等のリスクの少ない援助を考えることができる。 |
| 【到達目標】 |
| 知識に基づいた援助と安全を考え実施できる知識の習得ができる。 |
| 【授業の方法】 |
| ・講義・演習 |
| 【成績評価の方法と基準】 |
| ・試験80%・レポート20%の評価 実技試験あり。 |
| 【授業時間外に必要な学修の具体的内容】 |
| ・他教科の発達と老化の理解、障害の理解と併修すると理解が進みます。 ・実技は自主学習も進めましょう。 |
| 【使用教材・教具】 |
| ・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座15 医療的ケア |

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・配布プリント ・実技に必要な物品は学校で準備します。 |
| 【履修にあたっての留意点】 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・実技試験に合格するのは必修です。繰り返し練習をしましょう。 |

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|--|------|------|-----|------------|-------|
| 医療的ケアⅡ | 30時間 | 15コマ | 1単位 | 2年 (後期) | 必修 |
| 【学修内容】 | | | | | |
| 1. 医療的ケアに必要な利用者のところとからだのしくみを理解し個人の尊厳を守り、自立した生活の援助の展開ができる。 2. 呼吸器系のしくみを理解し喀痰吸引時の操作・感染等のリスクの少ない援助を実施できる。 3. 消化器系のしくみを理解し経管栄養時の操作・感染等のリスクの少ない援助を実施できる。 | | | | | |
| 【到達目標】 | | | | | |
| 知識に基づいた援助と安全を考え実施できる技術を習得する。 | | | | | |
| 【授業の方法】 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・講義・演習 | | | | | |
| 【成績評価の方法と基準】 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・実技試験での合格も必須 ・筆記試験80%、レポート20% 実技試験あり。 | | | | | |
| 【授業時間外に必要な学修の具体的内容】 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・実技試験では、放課後等自己学習の時間も活用し必ず合格できるように学習を進めてください。 ・筆記試験は、人体の知識も必要になりますので、発達と老化の理解で学習したことを復習しておきましょう。 | | | | | |
| 【使用教材・教具】 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座15 医療的ケア ・配布プリント ・実技に必要な物品は学校で準備します。 | | | | | |
| 【履修にあたっての留意点】 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケアⅠ、発達と老化の理解、障害の理解との関連性が大きい教科です。各教科を関係させながら学習を勧めましょう。 | | | | | |